



グッドデザイン賞2020の金賞に選ばれた延岡駅周辺整備プロジェクトの中心となるエンクロス

金賞にエンクロス

延岡駅周辺整備プロジェクト

14/31 グッドデザイン賞2020 審査員が高評価

日本デザイン振興会は30日、今年度の「グッドデザイン賞」の金賞に、延岡駅前複合施設「エンクロス」を中心とした「延岡駅周辺整備プロジェクト」が決まったと発表した。

金賞（経済産業大臣賞）「デザイン監修者」には、大賞（内閣総理大臣賞）に次ぐ賞で、審査委員会が最も優れていると評価したデザインに贈られる。今年度の大賞は「自律分散型水循環システム WOTABOX」、金賞は同プロジェクトなど19作品が選ばれた。

延岡駅周辺整備プロジェクトは、2009年度に市が駅周辺活性化のためにまとめた基本構想に基づいてスタート。11年にプロポーザル方式で建築士の乾久美子さんが

「デザイン監修者」には、18年に完成した。乾さんがデザイン監修した延岡駅周辺整備プロジェクトは今年6月、国内最高峰の建築賞とされる日本建築学会賞を受賞している。エンクロスを中心とした建築作品や市民ワークショップ開催などの設計プロセスが評価されている。今回の受賞は、市民中心に駅舎や自由通路、駅前広場など多様な施設を整備し、交通結節点の機能にとどまらず、市民

の憩いの場や、来訪者を迎える玄関口としてのデザインを目指したところ。プロジェクトでは市民とのワークショップを同時に進行。既存の町並みに溶け込ませ、駅前人がいるにぎわいを提供するデザインが、評価されているという。

【審査委員の評価】延岡駅の周辺整備プロジェクトは、ただ新しいハコを造るのではなく、市民とのワークショップを重ね、地域との関係性を築きながら、新しい公共空間を実現した。プログラムとしては、待合所のほか、1階にスターバック、地域特産品の販売所、キッズサービス、2階に

含む、県内の主要バス停20カ所に設置。運行する方面ごとに路線別の乗り場番号や経由地などを、発車順に切り替えながら表示し、バスが入ってくるまでの残り時間も分かるようになっていく。

バスロケーションシステムは同社のホームペー